

指定管理者導入施設 管理運営総合評価シート（標準例）

1 評価対象施設の概要

施設名称	生駒ふるさとミュージアム			
所在地	生駒市山崎町11番7号			
指定管理者名	株式会社 地域文化財研究所	指定期間	開始日	平成26年2月1日
利用料金制適用区分	利用料金制		終了日	平成30年3月31日
選定方法	公募	評価実施年	最終年度を除く指定管理期間全体	
設置目的	生駒の歴史を標榜し、市民のみなさんが過去・現在の生駒を思い、未来の都市像を予測して頂くための施設の設定			
主な実施事業等	常設展示、企画展示、特別展時、体験型普及啓発事業、講座、講演会、資料の収集・保存・調査・研究・普及等			

2 利用実績

利用区分等	単位	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度		
来館者数 大人	人	2,030	8,274	7,532	7,847		
来館者数 子ども	人	311	1,900	3,056	3,034		
来館者数 合計	人	2,341	10,174	10,588	10,881		
多目的室利用	件	11	295	290	351		

3 事業収支

		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度		
収入計	A	4,379,040	27,620,519	27,469,275	27,686,220	0	0
指定管理料		4,263,000	26,640,000	26,538,000	26,435,000		
利用料金収入		4,890	375,190	235,915	241,470		
自主事業収入		111,150	605,329	695,360	1,009,750		
その他							
支出計	B	4,357,128	27,879,252	27,844,830	27,612,279	0	0
指定事業費		4,267,890	27,216,430	27,053,720	26,622,115		
自主事業費		89,238	662,822	791,110	990,164		
事業収支	A-B	21,912	-258,733	-375,555	73,941	0	0

4 管理運営状況評価

<b>有効性</b> ：施設の設置目的の達成（施設の目的や特性等に合致した管理運営、市民の平等な利用の確保、利用者の満足度等）	
指定管理者による自己評価	「生駒ふるさとミュージアムの管理に関する基本協定書」、「生駒ふるさとミュージアム管理運営基本仕様書」、「生駒ふるさとミュージアム管理業務特仕様書」に基づき、事業を実施している。また、事業報告において評価検証している。講座については、希望された方には全員受講いただけるよう、その都度会場のレイアウトの工夫等により対応している。また、会議室として多目的室も利用していただけるよう広報等で周知をし、貸館業務を行い利用に供している。講演会・イベント毎にアンケートを行い、参加者の満足度は、25年度から28年度にかけて大変満足・満足を合わせ70%以上を維持している。
市の評価	本市の歴史文化の普及啓発の拠点施設として、専門性を発揮した特別展示や講演会、史料の収集・保存・活用等の学芸業務が確実に行われている。成人を対象とした事業のみならず、小学校からの見学の受入れをはじめ、子どもを対象とした体験学習やイベントにも積極的に取り組まれている。来館者サービス向上の視点を持ちながら、専門性を発揮した施設運営がなされていることがアンケートからうかがえる。
<b>効率性</b> ：経費の縮減等の効果（経費縮減・収入増加の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	使用者がいない時の部屋の電気や空調は適宜消すように心掛けている。温水機器などは常に節電モードに設定している。ミスプリント、チラシの裏紙を積極的に再利用し、コピー用紙購入の削減を行っている。27年度に比べ、28年度は12%削減できた。ボランティアの協力で中庭の景観維持・植栽管理等を中心に行い、経費の削減に努めている。講座や講習会、ハイキングなど市民ニーズに対応したイベントを実施し、館への集客に繋げる事業を増やした。多目的室の利用を増やすために施設案内パンフレットの作成を行い、広報いこまちへの掲載に加え、自主学習グループへ案内状を送った。夏休み前に勾玉・土笛づくり体験のチラシを市内小学校全生徒に配布し、夏休み期間中の来館者数・収入の増加に努めている。
市の評価	継続的な環境行動の推進やボランティアの人材活用により、経費の節減に取り組まれている。テーマや展示内容における工夫など、企画事業の充実により収入増加につながっている。今後、さらに柔軟な発想で、新たな取り組みにも期待したい。

<b>適正性：適正な施設の管理運営（施設の管理運営の状況、自主事業の取組、安全管理・危機管理体制等）</b>	
指定管理者による自己評価	施設管理に支障が発生しない適切な人員数を配置している。イベントなど人手のいる場合は、適宜ボランティアへ呼びかけ手伝いをお願いをしている。チラシ、広報いこまちに加え、HP、Facebook、Twitterを活用するなど、幅広い年齢層に対応した手段で、イベント・講座をはじめ企画展・特別展等の更なる周知に努めた。常時利用できる体験学習事業や、定期的を実施する講演会等により、博物館施設として市民に広くご利用頂ける環境を提供している。同時に、飲料の提供により快適性も追及している。安全管理・危機管理体制については「生駒市個人情報保護条例」を遵守している。また、事故発生時の緊急連絡体制・事案については「危機管理マニュアル」に基づき、周知している。
市の評価	有資格者のスタッフの配置により、博物館類似施設として高いサービス水準が維持されている。地域に根差した専門性の高い施設運営のために、引き続き、専門性・継続性を意識したスタッフの配置をお願いしたい。自主事業は、多彩なイベントや人気の高い講座の開催など非常に充実している。危機管理の面においても定期的な訓練やマニュアルの整備により、有事に備えた体制が図られている。
<b>安定性：サービスの安定的な提供（事業収支の状況）</b>	
指定管理者による自己評価	26・27年度は赤字であった収支が28年度には僅かながら黒字を計上することができた。今後、更なる周知を行い来館者の増加を図るとともに、ニーズに合った事業実施により、収益増につなげていきたい。
市の評価	平成26・27年度は、マイナスの収支であったが、平成28年度は効率的な運営に加え、企画事業、自主事業ともに収益増の成果が得られ、ともにプラスの収支となったことは大きな成果である。効果的なPRとともに、柔軟な発想に基づいた今後の事業展開を期待する。

## 5 総合評価（指定管理期間全体を通じた管理運営に対する評価）

指定管理者による自己評価	
開館から4年目を迎えた。同規模の博物館施設においては、開館時をのぞき翌年度から来館者が減少する傾向がみられるが、本館は毎年わずかずつながら増加している。この理由は館の存在が市民に一定程度周知されてきたことや、来館者のアンケート結果に表れているように、市民ニーズに応じたイベントや日頃の学芸員業務の成果として、わかりやすい特別展や企画展などが実施できていることによるものと自負している。また、登録有形文化財である館を後世に伝えるための維持、保存に対する管理も適切に行っている。本市の文化財の整理・保存も含め、学芸員の研究成果を、幅広い世代の市民のみなさんに還元できるよう、さらに力を入れていきたい。	
市の評価	
開館後も引き続き、一定の来館者数の水準を維持しながら、専門性に基づいた手堅く、多彩な事業展開をされている点を高く評価する。今後、学芸業務に基づく調査研究の還元もぜひお願いしたい。来館者の年代にやや偏りがみられることから、専門性の発揮とともに、幅広い世代に関心を持ってもらえる柔軟な発想にも今後期待したい。新しい発想がミュージアムのさらなる魅力発信や新たなファンの獲得、また、収益の増にもつながるものと期待している。	